

事例2

< 事例概要 >

(胃瘻造設)

・80歳代、重度の大動脈弁狭窄症で当該医療機関に入院中の患者。抗血小板薬内服中。四肢拘縮あり。BMI 17.2 kg/m<sup>2</sup>。血清アルブミン値2.7 g/dL。

・食事摂取量低下、介護施設利用のため、当該医療機関の他診療科より胃瘻造設を依頼。術前にCT検査を実施。抗血小板薬は術前日より休薬し、血液凝固阻止薬を持続点滴。

・経皮内視鏡的胃瘻造設術で、バンパー型カテーテルを使用し、胃体中部前壁に造設。

・約3時間後、胃瘻造設部からの出血により凝血塊を含む吐血あり。顔面蒼白、意識レベル低下し、当日死亡。

・死因は、凝血塊による気道閉塞。死亡時画像診断 (Ai) 有、解剖有。